

038

バーチャルキャラクターによる 常駐警備サービスで 災害時の混乱を低減

取組主体

セコム株式会社

従業員数

16,153 人

想定災害

地震等

実施地域

東京都

- AI 搭載のバーチャルキャラクターが常駐警備を行う「バーチャル警備システム」を開発。災害時の避難誘導や避難施設で活用することで、避難時の混乱低減につなげる。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

AI 搭載バーチャルキャラクターによる災害時避難誘導

- 警備サービスを展開するセコム株式会社は、人手不足が顕著となっている警備業における課題解決を目指し、AI 搭載のバーチャルキャラクターが常駐警備を行う「バーチャル警備システム」を開発した。
- バーチャルキャラクターは、画像センシングや音声認識により、周辺状況に応じた自律動作や会話、周囲人物の体温検出を行い、自律的な警戒監視や来訪者応対を行うことができる。
- 大型のディスプレイに注意喚起・誘導情報、地図等の表示を行い、必要に応じてバーチャルキャラクターによる的確で分かりやすい避難誘導を行うことで、災害時の混乱を低減させる。また、煙が充満している場所であっても、状況把握・避難誘導を実施することができるため、人であれば危険が伴う状況下においても、活用が期待される。



AI 搭載バーチャルキャラクター

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 平時においては、キャラクターが周囲の人間に目を合わせながら存在感を発揮する。新型コロナウイルス感染症の拡大により、発熱者対応や案内等のニーズが高まる中で、周辺監視や受付対応に加え、体温検出やマスク未着用検知を行い、ログの記録や声掛けをするなど、来訪者の一次対応を「バーチャル警備員」が担うことで、来訪者・警備員双方の感染リスクを低減することに寄与している。
- 人材が不足している中で、限られた人員でより多くの個所に対して効率的に常駐警備を行うことができるため、コスト面においても、大幅な低減が可能となる。

3 現状の課題・今後の展開等

- 同社は、令和3年中の正式サービス開始を目指し、運用評価を進めている。サイバーセキュリティ対策等も含め、商品化に向けた実装を進めていく方針である。

担当者の声

- 「バーチャル警備システム」は社会課題を解決すべく開発したデジタルツールです。セコムでは国内導入実績 No.1 の「セコム安否確認サービス」等の BCP 関連サービスも手掛けており、今後は「バーチャル警備システム」にも BCP 関連サービスで得たノウハウ等も取り入れながらさらに進化させて国土強靱化に寄与したいと考えています。

問合せ先

セコム株式会社 法人番号：6011001035920
TEL：03-5775-8210 FAX：03-5775-8927 E-Mail：press@secom.co.jp

サイト URL



動画

